

岩手県立高田病院支援活動日記（その1）

I H I 播磨病院 整形外科 西川 梅雄

✨
今年もいろいろお世話になりました。
来年もどうぞよろしく願いいたします。
✨

大阪医科大学リハビリテーション科教授佐浦隆一先生のご尽力により、岩手県立高田病院（以下高田病院）の支援に行く機会を得たので報告します。

まず陸前高田市について。岩手県の太平洋側では最南端にあつて（岩手の「湘南」と呼ばれるくらい暖かいらしい）、その北に大船渡市、南に宮城県気仙沼市がそれぞれ接している。人口約2万4千人、そのうち約1割が今回の震災で亡くなられたか行方不明のままである。高田病院の4階まで津波が押し寄せ、屋上で160名以上が孤立し1夜を明かし、ヘリコプターで翌日救出された。大きな松林（高田松原）が津波で一瞬のうちに消滅し、7万本の松の木のうち1本だけが残った。さらに8月に京都5山の送り火（大文字焼き）でその松を使う予定が「風評被害」で中止になり、現地で「迎え火」の行事を行った。

平成23年10月某日（月）私は夕方大阪伊丹空港から飛行機に乗り、約1時間半で岩手県花巻空港に到着。飛行途中で日が暮れて花巻到着時にはあたりは真っ暗。空港から車で1時間10分ぐらいで住田町（陸前高田市の隣町）のT旅館に到着。翌日から3日間、旅館から車で30分位の所にある県立高田病院仮設診療所（写真①）へ通って整形外科の外来診療を支援した。



写真① 岩手県立高田病院 仮設診療所。陸前高田市米崎地区にある。現在は内科、外科、整形外科、小児科など外来のみ。今後病棟も立てる計画が決まった。



写真② 外来待合で。患者さん、職員も一緒に体操する。みんな「元気」である。

第1日目（火）8時半からリハビリテーション（以下リハ）室で病院長以下全職員集合して朝礼。前日の患者数などを事務が報告後、最後に本日応援の医師の自己紹介などがあつた。その後待合室へ移動して、患者さんと職員全員が理学療法士の指導で軽い体操をした（写真②）。従つて外来は8時45分頃から始まる。各科外来診察室前で本日の担当医師と看護師が紹介されて外来開始だ。整形外科は7月～12月まで常勤1名（大澤良之医師）がいてくれて、順調に外来をすることが出来た。

外来は外科系では 2 つの診察室と処置室（兼救急外来）が使用可能である。外来は午前中は 12 時まで。午後は 1 時半から 5 時であるが、午前中の来院がほとんどである。整形外科の患者数は毎日 50 名前後であった。



写真③ 病院裏で。島貫先生（右）と。右後ろのプレハブ（灰色の壁）は医局や食堂などになっている。

昼過ぎから島貫（しまぬき）政昭先生の運転で被災地の見学。他にも応援できている小児科医師 N 先生など合計 4 名。島貫先生は NHK の「ダーウィンが来た」で出てくる「ひげ爺（じい）」そっくりの人で「何だかテレビで見たような気がしますので」と言いつつ記念写真を撮った（写真③）。

先生は毎日昼休みを利用して車を自ら運転してあちこち案内してくれた。

元の高田市街がどんな感じか知らないが、平地に家がない。瓦礫の大山があちこちにある（写真④）道路はかなり通行できるようになっているが、工事用車両以外は通行止めのところも多い。田畑の中には車の残骸がまだ残っている。これでもかなり片付けられたそうである。



写真④ 瓦礫が集められて、大山になっている。瓦礫が片付けられただけでも、復興が進んだ気がすると言います。石木院長は言う。



写真⑤ 希望の 1 本松。松の幹も保護されている。

希望の 1 本松へ行く（写真⑤）。高田松原 7 万本の唯一の生き残りだ。松の根の周囲が鉄板で囲われて、その中の塩水をポンプで抜いていたらしい。が、今はなぜか動いていない。木の上のほうに残っている枝についている松葉が何となく赤茶けて見える。大丈夫だろうか？残った枝を挿し木にしているとか、松ぼっくりから芽が出たとか言う報道もあるようなので、すくなくとも DNA は残るのだろう。

（次号に続く）

TTAK 新聞のバックナンバーは

播磨病院ホームページ <http://www.harima-hp.jp/>からご覧になれます。